

もっと知りたい

武者小路実篤

あたらしきむら 新しき村

「新しき村」ってなに？

理想の社会をつくる？

大正7(1918)年5月、実篤は以前から思い描いていた、自分の理想の社会について発表しました。

この理想社会は、実篤の頭の中でだんだん具体的になっていき、「新しき村」と名付けられます



大正7(1918)年、33歳ごろの実篤

実篤の理想の社会って？



いったい「新しき村」というのはどんな村なんだい？

この村は、みんなが兄弟のようにお互いに助け合いながら、自分を成長させよう、人間らしい生活をしようという村なんだ。



人間らしい生活とはどんな生活だい？

まず人類の一員として、僕たちが生活していくのに必要なだけの仕事をする。そしてそのほかの時間で、芸術活動なんかの自分たちのやりたい仕事をしよう、という生活のことさ。



(「新しき村の小問答」を元にして、文章を現代風に変更しています)

この時代の社会には貧富、身分の差が大きく広がっていました。こうしたことに不平等を感じている人たち、特に若い人々の間で、「新しき村」の、個性を大切に「人間らしく生きる」という考え方は、強く支持されました。

■仲間が集まる

実篤が発表した「新しき村」の考えに、多くの
人々が賛成しました。

日本中から、一緒に村を作りたいという熱意
を持った人たちが、実篤のもとに集まってきま
した。そして実際に村を作るために動き始めま
す。



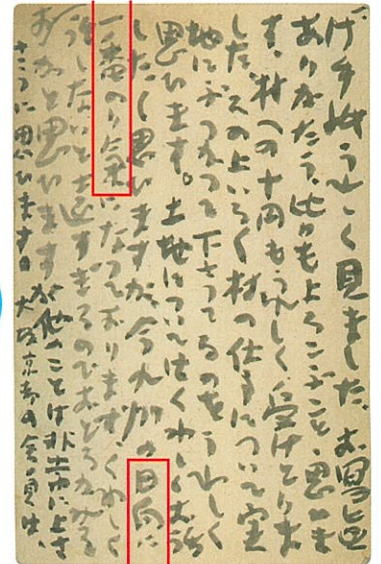
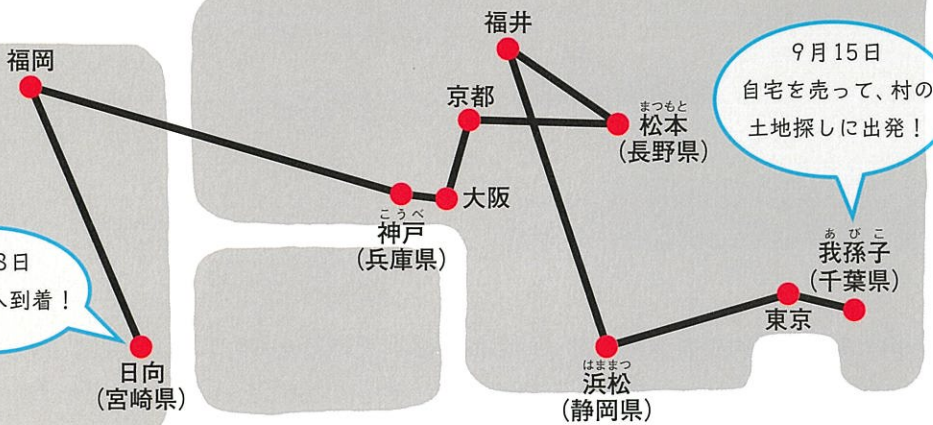
大正7(1918)年、大阪の講演会にて
前列右から3人目が実篤

■どこに作ろう？

村の土地を探しに実篤たちが旅立ったのは大
正7年9月。各地に立
ち寄って新しき村に
ついて講演し、仲間を
増やしていきました。
そして日向の地(現在
の宮崎県児湯郡木城
町)に村を作ることを
決めました。



「日」に「向」かうと書くのが
いいなあ。
南の暖かい土地でいろいろな
ことができそうだ。



大正7(1918)年に実篤が出した手紙
村の場所について「日向に一番のり気」
の文字が見える

こうして「新しき村」は大正7(1918)年11月14日に作られました。
今もその活動は続き、平成30(2018)年に、「新しき村」は創立100周年を迎えます。